

# 鈴木ユキオ×関かおり (後編)



ダンサーに求めるもの、身体へのディレクションや振付への思いなど、様々な活動を通して手に入れたスタイルは、意外と共通点も多かった2人。お互いに共感するところも多く、丁寧に交わされる言葉が、それぞれの作品観をあぶり出すようでした。そして、後編では、さらに、現在のクリエイションへ話が及びます。

関 今回のユキオさんの作品は再演？リクリエイションですか？

ユキオ 昨年の秋、相模大野で30分弱くらいの作品を作ったのがベースになっていて、今回は、それを膨らませて1時間くらいにしようと思っています。

関 もう、ダンサー皆さんの身体が仕上がっているように見えました。もちろん、さらにもう一歩、変わっていくのだと思うんですけど。

ユキオ 相模大野は、デパートのものすごく広い屋上で上演する企画だったのですが、その時すでに、これを本公演用に膨らませたいな、と考えて作ったトライアル的な小作品でした。そういう意味では、今回新しく入ったダンサーも何人かいますが、1回身体の擦り合わせ、共有がで

きているので、身体へのディレクションは楽といえば楽かな。

関 屋上から劇場での上演に変わったら、だいぶ変わりますよね？

ユキオ そうですね。とは言っても1回30分の小作品を長くするときのとっかかりが難しくて、全然広がらない、どうしても元の作品に引っ張られちゃう。一旦完成した作品だったので、突破口を見つけるのに、結構時間がかかってしまいました。逆に、1時間のものを短くしてください、というのも時間がかかるじゃないですか。あの感じで、モヤモヤしている時間がありましたけど。今、やっと少し楽になって、もうちょっとかなと。

関 基本的には、ユキオさんが全部の動きを提示していく感じですか？それともダンサーも？

ユキオ ここ最近は、自分のダンスを作って、さらにダンサーに一人ずつ作っていくというか、与えていくという形をとっているかな。身体って人それぞれ違うから、個人個人と向き合って紡いでいく方が、僕は面白い。振付を与えたダンサーの身体を見て、それにまた僕が引っ張られて、閃くこともあるので、結果的には共同作業という感じになっていると思います。

関 これはポジティブな意味でなのですけど、ユキオさんのカンパニーだから、それぞれの身体にユキオさんの身体のニュアンスが絶対入っていて欲しいというか、振付家の身体観が見られるのが、カンパニーかなと思う。稽古を拝見して、それぞれの身体の個性みたいなのも見えつつ、ユキオさんの動きのカケラが含まれていると感じました。

シーンの印象は、個々の身体が在る空間と時間が、具体的に、一緒に生活しましょうみたいなのではない重なり方をしていて、それが更に場を作っていく、たくさんのレイヤーがあって、見る側が関係性を作ろうと思えばできるけど、それよりも



個人の空間での身体の置き方があるように、私には感じられました。

ユキオ そうですね。まさに、今回の作品のタイトル「人生を紡ぐように時の流れを刻むように」そのものだと思います。グループワークだけど、それぞれの人生



や、それぞれの時間、身体が、見えてきたらいいなというのがあります。でも、今回は自分も出演するので、その時に全体のバランスをどうするのか。全部、匿名的存在として演出するか、個々が立つ考え方をするか。今回の作品は、個々の方に、さらに言えば、「鈴木ユキオの人生」に振ったというところはあるかな。

関 私が稽古を拝見した時に使っていた音は、30分の屋上でやったときと同じですか？

ユキオ そうですね。あの時は、作品の終盤に、メロディがある音楽を使っていたのだけど、今回は劇場なので、また違った感じに行けるのかな、と思っています。音に関しては、音響的な演出から、実際の音作りまで、一緒にクリエイションをしてくれるサウンドデザイナーがいるので、何か閃いたら、新しい音を作ってもらおうかな、と思っています。今はまだいろんな音を身体に乗せてみて、作品の変化を試しているところです。

関 なんかこう、ベースにある音があって、そこに質の違うものが入った瞬間があったのですが、音がもう一つ、背景を足してくれたような感じがあって、面白いな、と。個々の時間というのが、例えば、この場で私がいた時間とユキオさんがいた時間を、別々に写真に撮って重ねたみたいに、同時にいるというような、でも別々の場所にいる。そこにもう一つ、日本人であるダンサーたちの身体とは違う雰囲気音が加わって、さらに景色を世界まで広げてくれたような感覚があって

すごく面白いなって思いました。

ユキオ 関さんって、音、使いましたっけ？

関 音は使うけど、音楽は使わないですね。でも、メロディを使ってみたい。今回、そこまでいけるかわからないけど、使ってみたいな、という思いは徐々に出てきたりしています。ただ、既成の曲を使うとなると、やっぱり私は、安易には使えないなとも思っています。今みんなが持っている振りは、実は音楽を使って作ったものから変化させたものもあります。音楽の持っている世界観ってあるじゃないですか。耳から入ってきた情報で、今、見ている景色をいかようにも変えられたりすることに対してポジティブに付き合えない。お客さんの想像に任せておきたい部分もあると思ってる。演出的に解釈を助けるって意味で音楽というものと付き合っていたら、いいなと思ったりはしています。

ユキオ 今回、美術は使わないの？

関 今、舞台監督さん含めて、いろいろテストしてます。ちょっと前の作品だと、シンプルに身体があって、砂が全面に敷いてあってとか、結構シン



プルだったのでですけど、今回は、具体的に美術があることによって、もう一つ、たくさんのお客様の肌に伝わる演出とか、空間を動かすような印象を与えるようなものを取り入れる方向で動いています。でも、アイデアはいろいろ、こういうのがあったらいいかもとか、あれはどうかとか、いつもあれこれ試したりするものの、結局削いでいっちゃうので、実際にものや、サンプルとかをみて、本当に必要と感じれば使っていきます。ユキオさん、美術は？



ユキオ 今回の予定は、美術って本当は効果的に何かあったらいいな、といつも思うのだけど、なかなか難しいですね。クリエイションの最初の段階で閃いた時はいいけど、そうでない場合、僕は、結果的に身体だけで十分かなってところに行き着いちゃうことが多いかな。

関 その感覚は何かわかります。私は結構、床を変えたいと思うので、入れるとしても砂だったり、マットだったり。美術ってくるくる変わらないし、場を限定しすぎちゃう時ってあるじゃないですか。そうすると、なんか身体で広がりそうだったものにストップをかけちゃうというか。

ユキオ 話は変わりますが、ソロやデュオの作品を作る時とグループワークは違いますか？

関 違うと思います。ソロはまだ、カンパニー作品としては作っていない。自分のソロって考えるともう地獄。ダメなんです、私。グループワークでもデュオがあったり、身体が増えれば増えるほど、それこそ手間をかける時間も増すけど、見えてくるものが膨らんだり、逆に萎んだり、この振り幅は変わるんですけど、「ソロ」と「それ以上」が私の中では今、圧倒的に壁がある。

ユキオさんはカンパニーの作品と、ユキオさんの「ソロ」のプロジェクトはまた別ですか？

ユキオ そうですね、なんとなく別のものとして捉えていますね。やっぱり、僕はソロ・デュオくらいまでだと、ソロの感覚で作れる。それ以上のグループワークになると別のベクトルが生まれるみたいな感覚があって、特に今回のように、7~8人になった時に、ソロとは全然違うも

のという感覚と、それでいいのか、という気持ちがせめぎ合います。自分が出演しない時のように演出家脳で作るのか、僕自身の身体でしかできない世界で攻めるのか。今参加してくれているダンサーたちには、かなり僕の身体論や踊りを伝えられるようになったとはいえ、僕の場合、ダンスを習わずに舞踏からスタートしていることも関係しているのかもしれないのですが、かなり特殊な「個人の踊り」としての身体性で踊ってきたところもあるので、そこが難しいところでもありますね。今は、作品によっては、全然ガラッと変えたり、前作「堆積」のように、匿名的集団性で作る時があれば、あえて鈴木ユキオの身体というもののグループワークにする時もある。いつもどこに持っていくか、作品によって、どちら側がいいのか、結構悩みながら考えているところかな。

関 じゃあダンサーがたくさんいて、その中にユキオさんも出演するってなった時って、いろんな葛藤とかがありますか？

ユキオ やっぱり、全員の身体がそれぞれ目立って欲しいけど、そうするとフラットになってしまう。作品としてフラットに演出するのはいいけれど、本当の意味で全員が平等になることに、「それってどうなの？」という気持ちも

あって。やっぱりシーンとして、大人数のシーンだとしても、個人をたてたいというのがあるのかもしれない。そう思った時に、自分を立たせて自分自身がシーンになるのか、あるいは、自分を手放して、シーンを成立させるのか。そこがいつも絶対こっちでいいやと思えない。思えたら、どちらでも楽なんだけど（笑）。それって覚悟なんだと思うけど、結構両方の良さがあると思うので、自分はいつもそこで一度立ち止まって考えるところかな。それでいいのか、でもこうした方がいいのかな、とかね。



関 私、ユキオさんの身体の印象をメモったんだけど、これはポストトークにとっておきたい（笑）。

ユキオ そうですね。この続きは、終演後ということに（笑）。



「このままいつまででも話してしまいそう」と笑いながら、今回の対談は終了しました。ここから本番まで、お互いクリエイションが続き、プレミアを迎える頃には、また違った感覚・言葉が生まれることと思います。ぜひセット券で両方ご覧いただき、このトークの続き、あるいは、さらなる展開は、両公演のポストトークで！

### <鈴木ユキオ×関かおり ポストトーク>

- ① 関かおり公演 2/29（土）18:00 の回 終演後
- ② 鈴木ユキオ公演 3/7（土）19:30 の回 終演後

※「関かおりPUNCTUMUN」「YUKIO SUZUKI projects」いずれかの公演チケットをお持ちの方はどなたでもご参加頂けます。

※開催日以外のチケットでご参加希望の方のご案内は公演終了後となります。定員を超えた場合はご入場頂けません。ご了承ください。

人生を紡ぐように 時の流れを刻むように

2公演合わせて 400円割引!!!

「関ユキオ」セット券 6,600円

お申込は、劇場チケットセンターへ <https://setagaya-pt.jp>

ポストトーク1 「鈴木ユキオ×関かおり」 2/29 18:00 終演後

ポストトーク2 「鈴木ユキオ×関かおり」 3/7 19:30 終演後

WARP MANIA vol.2 Life Spins, Time Flows

YUKIO SUZUKI PROJECTS

6 FRI - 8 SUN MARCH 2020

SANGENJAYA, TOKYO

### 関かおりPUNCTUMUN 『むくめくむ』

【日程】 2/28(金) ~ 3/1(日)

【会場】 シアタートラム

【演出・振付】 関かおり 【振付助手】 後藤ゆう

【出演】 内海正考 後藤ゆう 酒井和哉 清水駿 杉本音音 高宮梢 ほか

### 鈴木ユキオプロジェクト warp mania #2

『人生を紡ぐように 時の流れを刻むように』

【日程】 3/6(金) ~ 3/8(日)

【会場】 シアタートラム

【振付・演出・出演】 鈴木ユキオ

【出演】 安次嶺菜緒 赤木はるか 田端春花 山田暁 栗朱音 阿部朱里